

報道発表資料
令和7年11月27日
国立国会図書館
国立大学法人東北大学

令和7年度 東日本大震災アーカイブシンポジウム

震災アーカイブの構築・継続・次世代への継承

開催のお知らせ

国立国会図書館と東北大学災害科学国際研究所は、令和8年1月11日に「東日本大震災アーカイブシンポジウム」を開催いたします。

令和8年は東日本大震災(平成23年)から15年、熊本地震(平成28年)から10年の節目を迎えます。この間、国内外の様々な機関が、それぞれの強みを生かした特色ある震災アーカイブを構築し、継続的に運営してきました。教育現場では、防災学習・探究活動等における震災アーカイブの活用事例も生まれました。これらの取組は、震災の記録・記憶の次世代への継承に重要な役割を果たしています。

本シンポジウムでは特別講演として、米・ハーバード大学 アンドルー・ゴードン教授から、同学の「日本災害 DIGITAL アーカイブ」や日本の震災アーカイブの取組の意義について、海外の日本研究者からの視点でお話いただきます。熊本県、石川県の震災アーカイブのご担当者から、震災アーカイブの構築・運営の現況についてご報告いただきます。また、宮城県多賀城高等学校の教員及び生徒の皆様からは、同校の「災害科学科」のこれまでの歩みと現在の取組についてご紹介いただきます。最後に、今後の震災アーカイブの在り方や、教育現場における活用等の展望について、登壇者によるパネルディスカッションを行います。

■ 日時、申込方法等

日 時：令和8(2026)年1月11日(日)13時から16時10分まで(開場:12時30分)

会 場：東北大学災害科学国際研究所多目的ホール

(宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468-1)

主 催：国立国会図書館、東北大学災害科学国際研究所

後 援：デジタルアーカイブ学会

開催方法：現地開催のほか、事前登録者に対してオンラインで同時配信(Zoom)

参加費：無料

定 員：会場120名、オンライン300名(先着順)

申 込：以下URLのシンポジウム案内にある申込フォームよりお申し込みください。

<https://www.shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp/symposium/20260111/>

(東北大学災害科学国際研究所・みちのく震録伝)

問合せ先：東北大学災害科学国際研究所 災害人文社会研究部門 災害文化アーカイブ研究分野
(担当:柴山、小野)

電話番号:022(752)2099 E-mail アドレス:archiveforum@irides.tohoku.ac.jp

■ プログラム(敬称略)

オープニング

開会の挨拶

東北大学 災害科学国際研究所 所長 栗山 進一

趣旨説明

東北大学 災害科学国際研究所 教授 今村 文彦

特別講演

「日本災害 DIGITAL アーカイブ」の取組みについて

米・ハーバード大学 歴史学部 教授
アンドルー・ゴードン(Andrew Gordon)

事例報告

「熊本災害デジタルアーカイブ」の取組みについて

熊本県 危機管理監 鳥井 薫順

「令和 6 年能登半島地震アーカイブ 震災の記憶・復興の記録」の構築と現在

石川県 戦略広報監 中塚 健也

防災学習・探究活動における震災アーカイブの活用について

宮城県 多賀城高等学校 教諭 石山 俊太
及び 災害科学科 生徒代表

進捗報告

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)―システムのこれから―

国立国会図書館 電子情報部 主任司書 小林 芳幸

今後予想される震災アーカイブの未来について

東北大学 災害科学国際研究所 准教授 柴山 明寛

パネルディスカッション

震災アーカイブの構築・継続・次世代への継承について

モデレーター：柴山 明寛、パネリスト：登壇者全員

クロージング

閉会の挨拶

小林 芳幸